

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和5年4月18日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 22 人

② 算数 22 人

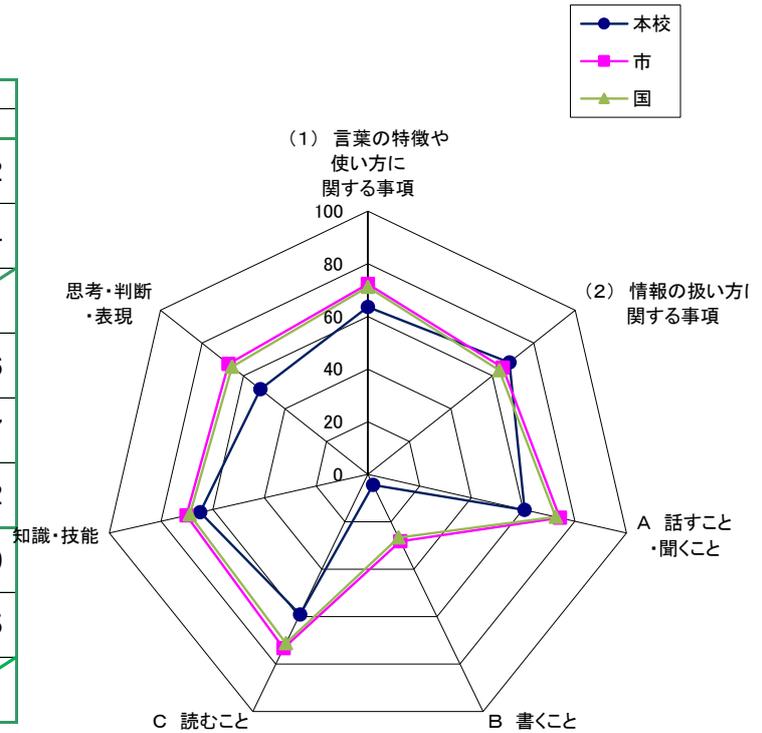
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	63.6	72.3	71.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	68.2	65.0	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	60.6	74.2	72.6
	B 書くこと	4.5	28.2	26.7
	C 読むこと	59.1	73.3	71.2
観点	知識・技能	64.9	70.2	68.9
	思考・判断・表現	51.9	67.2	65.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	○送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使いことができるか、日常よく使われる敬語を理解しているかどうかの設問では、県平均とほぼ同等の正答率であった。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかの設問では、正答率が県平均を下回っており、漢字の読み書きの理解に課題が見られる。	○漢字の習得については、1人1台端末を活用したり、朝の学習(特にぐんぐん式)や家庭学習で復習したりする機会を設けるなどし、繰り返し学習することで既習内容の定着を図る。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○原因と結果など情報と情報の関係について理解しているかどうかの設問では、正答率が県の平均を上回っている。	○物語を音読する活動を多く設けるなど、文章を読む力や文中での漢字の使い方の理解について定着を図る。 ●図書室利用の時間や朝の活動での読書の時間で、多くの語彙や情報、文章に触れる活動を充実させる。
A 話すこと・聞くこと	●必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかの設問では、3つの設問全てにおいて正答率が県の平均を約1割下回っており、課題が見られる。	●国語科の学習だけでなく、総合的な学習や他の教科や活動において、話し方聞き方のルールの振り返りや掲示資料等で話型を提示して、スピーチする場を意図的に設けるようにする。 ●読み物に取り組む際には、目的に応じて資料を活用させたり構成を考えさせたりして、話の内容が明確になるよう指導し理解が深めるようにする。
B 書くこと	●図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き、表し方を工夫することができるかの設問では、正答率が県の平均を大きく下回っており、課題が見られる。	●1行日記等、条件に沿って短い文章を書く活動を取り入れ、文章を書くことへの苦手意識の改善を図る。 ●文章を読んで、それを図や表で表す等、文章に書かれている内容を可視化する活動を通して、表現力を高めたり、理解を深めたりできるようにする。

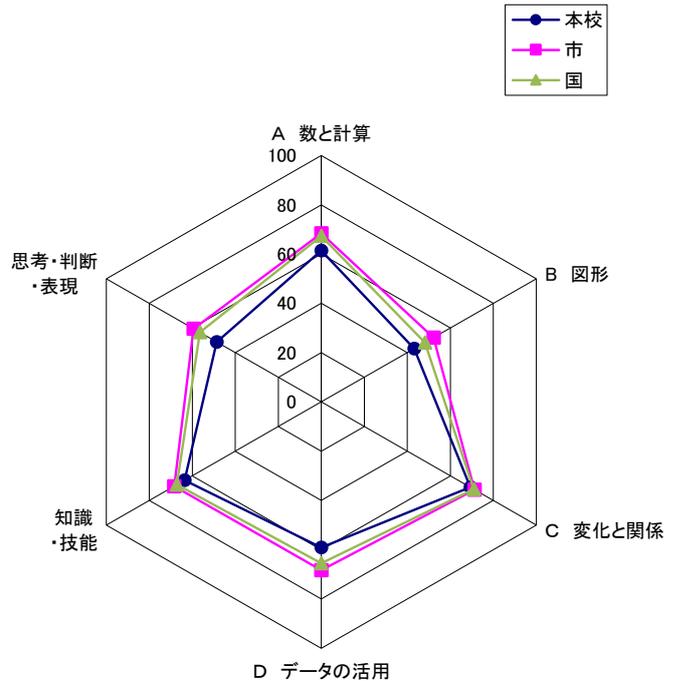
C 読むこと	<p>○目的に応じて、文章と図表等を結び付けて要約する設問では、正答率が8割を超えており、全体的に力が身に付いていることがわかる。</p> <p>●文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかの設問では、正答率が約3割であり、県の平均を大きく下回っていることから、文章を読んで理解する力が極端に弱い。</p>	<p>・物語文の授業では、感想を伝え合ったり、思ったことを短い文章で記入したりする活動を取り入れることで、内容の理解を深め、自分なりの思いをもって考えを表現できるよう工夫する。</p> <p>・様子を表す語彙について、様々な表現方法があることを理解させることで、語彙を増やし、理解を深めるよう工夫する。</p>
--------	---	---

宇都宮市立城山東小学校第6学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	61.4	68.4	67.3
	B 図形	43.2	52.2	48.2
	C 測定			
	C 変化と関係	69.3	71.2	70.9
	D データの活用	59.1	68.3	65.5
観点	知識・技能	63.6	68.4	67.2
	思考・判断・表現	48.7	59.4	56.5
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	<p>○加法と乗法の混合した整数の計算や分配法則を用いた計算ができるかを問う問題では、正答率が全国平均を上回っている。</p> <p>●一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかを問う問題では、正答率が全国平均を大きく下回っている。</p> <p>●$66 \div 3$の筆算について、図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ問題では、正答率が全国平均を下回っており、各段階の商の意味を考えることに課題がある。</p>	<p>・計算の仕方がしっかりと習得できるように、朝の学習など様々な時間を使って反復練習をしていく。</p> <p>・筆算等についても規則的に問題を解くだけでなく、各段階の意味や仕組みを理解できるように、説明させる場面を意図的に設定する。</p> <p>・式の意味を理解することができるように、文章問題から立式する際は、図や言葉、数直線などに表し、数は何を表しているのかということを確認しながら、問題に取り組ませていく。</p>
B 図形	<p>●切った開いた三角形を正三角形にするために、Aの角の大きさを書く問題では、正答率が全国平均を下回っている。</p>	<p>・図形の性質を理解させた上で、その性質を利用しながら発展的な問題に取り組ませていく。</p> <p>・実際に図形を紙で作ったり、動かしたりする活動を取り入れ、性質理解や組み合わせでできる様々な形への理解を深められるようにする。</p>
C 変化と関係	<p>○伴って変わる二つの数量について、表の中の知りたい数を求める問題では、正答率が10割であり、表から変化の特徴を読み取ることによく理解できている。</p> <p>●比例の関係にあることを基に、知りたい数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかを問う問題では、正答率が全国平均を下回っている。</p>	<p>・伴って変わる二つの数量について考察する問題では、問題に出てくる数は何を表しているかについて考える時間を確保したり、社会や理科など、他教科とのつながりでも考えたりできるようにしていく。</p> <p>・文章を読んで立式する際は、数は何を表しているのかということを確認しながら、文章問題に取り組ませていく。</p>

D データの活用	<p>○示された表から、運動した時間の合計が30分以上である日数を求める問題では、正答率が全国平均を上回り、「以上」の意味を理解し、表から必要な数を読み取ることができている。</p> <p>●示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかを問う問題では、正答率が全国平均を大きく下回っている。</p>	<p>・グラフの特徴や活用場面など、どのような情報を読み取ることによって効果的なのか等について、確認をしながら理解を深めていく。</p> <p>・算数に関わらず他教科においてもグラフを活用する時間を設けるなどして、データの活用力の向上を図る。</p> <p>・複数のグラフを比較し、そこから読み取れることを言葉や数を用いて説明し考える時間を確保し、データを活用する力の向上を図る。</p>
----------	--	--

宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」については県の肯定的回答を上回っている。特に朝食については、全員が肯定的回答をしていることから、規則正しい生活習慣が身に付いていることが分かる。

○「人が困っているときは、進んで助けますか」、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」については県の肯定的回答を上回っており、学校生活において、友達関係が良好であることがうかがえる。また、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」については、全員が肯定的回答をしており、人間関係について正しい認識をもって日々過ごすことができていることが分かる。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については、全員が肯定的回答をしている。国語の力が他の教科でも理解する力の土台となっていることや、語彙力や論理的思考力を身に付けることで、現在の学習だけでなく、将来、社会人となってからも必要な力だと認識していることが分かる。今後も、読書や議論する時間などを設け、しっかりと国語力を付けられるよう、支援していきたい。

○「算数の勉強は大切だと思いますか」、「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についても、全員が肯定的回答をしている。算数の学習で、計算力や論理的思考を養い、量の感覚を身に付けることで、現在の学習だけでなく、将来、社会人になってからも役に立つと感じていることが分かる。今後も、既習内容をもとにした導入や普段の生活経験から課題を見付けるなど、興味関心を高める授業を展開し、主体的に学習に取り組む力を育てていきたい。

●「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問については、県の肯定的回答を下回った。その要因として自己有用感が低いためと考えられる。今後、学校生活や学習の中で認め励ます機会を多く取り入れて自己有用感を高めていきたい。

●「将来の夢や目標をもっていますか」については、県の肯定的回答を下回っている。地域と連携して日々の学習活動と社会とを関連付けた活動を取り入れたり、キャリアパスポートを活用したりしながら、学んでいることと将来とのつながりを見通せる力を身に付けられるように支援していきたい。

●「国語の勉強は好きですか」、「算数の勉強は好きですか」については、県の肯定的回答を下回っている。また、国語と算数の「回答時間は十分でしたか」についても、県の肯定的回答を下回っている。今後は、導入の工夫や話し合い活動を充実させ、分かる楽しい授業を展開し、児童の興味関心を高められるようにしていきたい。また、朝の学習や家庭学習で既習事項の確認を繰り返す行うことで、基礎基本の定着を図っていきたい。

宇都宮市立城山東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・前学年までの「宮っ子学習ステップアップシート(漢字・言葉・計算・図形・量)」の計画的な実施。 ・家庭学習での、漢字・計算くりかえし練習。 ・朝の学習での、「城山ぐんぐん式」(国語・算数)の実施。 ・朝の学習での、ぐんぐん応援隊の活用。 ・AIドリルの活用。 	<p>●国語の漢字の読み・書きでは正答率が国の平均を下回り、書きに関しては無回答も1割いた。さらに繰り返し練習を行う必要がある。</p> <p>○●算数の分配の法則を用いた計算問題では国の平均を上回ったが、「掛け算・割り算」に関する筆算の問題では、国の平均を下回った。様々なタイプの計算問題を取り入れ、繰り返し練習を行う必要がある。</p>
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合い活動の日常化(※「考えるときのヒント」の掲示物の活用) ・学び合わせるための課題設定や発問の工夫 ・自分の思考イメージの外化(絵・図、言葉、計算式、ロールプレイ、具体物等)をしてから話し合う、学習過程の工夫。 ・ペアや少人数、グループ等の学び合い形態の工夫。 ・話し方・聞き方の段階的指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用。 ・本を介しての学び合い学習の実践。 ・条件に沿った文章表現や振り返りの実施。 	<p>○国語の「情報の扱い方に関する事項」の、「原因と結果等情報と情報との関係について理解しているかをみる」問題では、7割を超える正答率で、国・県ともに上回った。</p> <p>○質問紙における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定的回答が8割を超え、国の平均とほぼ同じだった。</p>

読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年20冊の必読書設定及び読書記録カードの活用 ・家読の推奨(※長期休業中実施) ・読み聞かせボランティア等による読み聞かせの実施 ・学級担任と学校図書館司書との連携による、本を介した学び合いの授業の実施 ・朝の学習(月・火は読書) 	○質問紙の「読書は好きですか」の肯定的回答は9割を超え、国の平均を大きく上回った。図書室に何度も行き、本を借りたり読んだりしている児童がとても多い。
実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な物や事象について、実際に大きさを調べたり確かめたりする作業的・体験的な活動の充実 ・日常生活における身近な物を測ったり身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定 	●算数の「三角形を正三角形にするために角の大きさを考える」図形の問題では、正答率が約1割であった。計算の仕方の理解にも課題があるが、図形の角の大きさの感覚をもつことも課題といえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語における言語についての知識・技能の正答率は、9割から3割と、国の平均を大きく上回ったものもあれば、平均を下回ったものもあり、むらがあった。知識を継続させ漢字を正しく使うことに課題がある。</p> <p>算数では、三角形の意味や性質、構成の仕方について国や県の平均に達していないことから、図形に苦手意識のある児童が多いことが分かった。</p>	<p>復習により、基礎基本の定着を図る学習の充実(国語の漢字・算数の計算に重点を置く。)</p>	<p>既習漢字の確実な定着を図るために、「宮っ子学習ステップアップシート」をや「城山ぐんぐん式」等を活用し、朝の学習や家庭学習の課題等で、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返す行う。</p> <p>また、ノートを書く時や作文指導などの際に、既習漢字を使うことや文と文のつながりを意識することを重点的に指導する。</p> <p>算数の図形では、復習プリントや計算ドリルを活用し、知識の定着を図っていく。</p>